

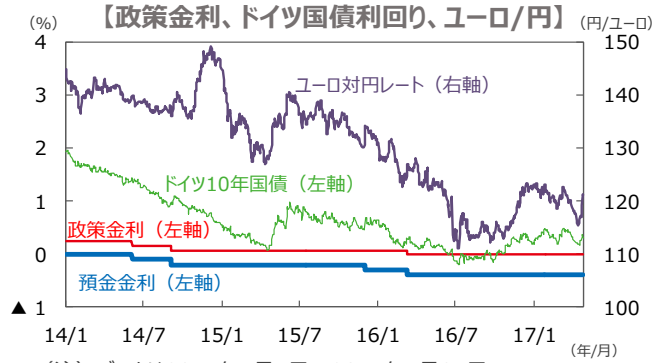
今日のトピック ECBの金融政策（2017年4月） 現状の金融緩和策維持を決定

ポイント1 金融政策を据え置き 金融緩和とバイアスを維持

- 欧州中央銀行（ECB）は4月27日の理事会で、政策金利、中銀預金金利（金融機関がECBに余剰資金を預け入れた際に適用する金利）をそれぞれ0.00%、▲0.40%に据え置き決定をしました。
- また、合計で月600億ユーロの国債や社債などを購入し、金融市場に資金を供給する量的金融緩和政策は、少なくとも17年末まで継続し、必要ならばそれ以降も継続するとの判断も維持されました。
- なお、将来の金融政策に対する考え方を示す「フォワードガイダンス」についても変更なく、「資産購入終了後も、政策金利は現状水準がそれ以下の水準で推移することを期待する」とされました。

ポイント2 経済判断は下振れリスク減少 物価判断は変更なし

- ドラギ総裁は、経済判断について、「景気拡大はしっかりしてきており、幅広いものになるだろう」と述べました。また、物価判断については、「基調はなお抑制されている」との従来の発言を繰り返しました。実際、消費者物価上昇率は、2月に前年同月比+2.0%に到達した後、3月にはエネルギー価格の影響などで同+1.5%まで鈍化しました。さらに消費者物価コア指数（食品・エネルギーを除く）指数は同+0.7%と低水準となっています。

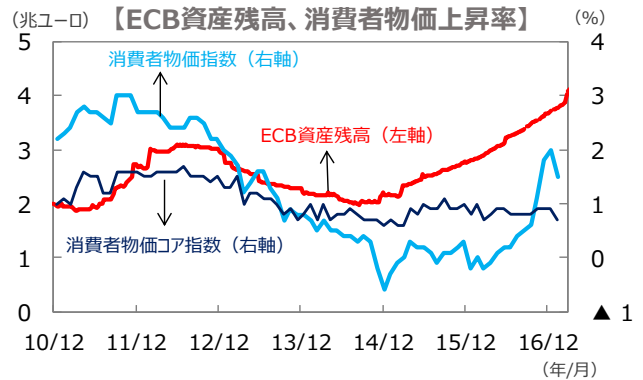


(注) データは2014年1月1日～2017年4月27日。

政策金利はMain Refinancing Operations 金利。

預金金利はDeposit Facility 金利（翌日物）。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは、ECB資産残高については、2010年12月31日～2017年4月21日（週次）。

(注2) 消費者物価上昇率は、2010年12月～2017年3月（月次、前年同月比）。

消費者物価コアは、全体からエネルギーと食品を除いたもの（同上）。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 金融緩和は継続だが、9月頃から緩和縮小へ向けた動きが視野に

- 今回は従来スタンスが維持されましたが、景気が回復し、インフレも緩やかながら底入れしつつあると見られます。現時点では、9月理事会頃からのタイミングで量的金融緩和縮小が発表される見通しです。
- なお、金融政策の変更・調整には、コアの消費者物価指数や賃金動向、期待インフレなどの指標が特に重要と見られ、ECBはこれらの数値の状況を確認した後、実際の発表に踏み切る見込みです。

ここもチェック! 2017年3月29日 最近の欧州の指標とマーケット（2017年3月） 2017年3月10日 ECBの金融政策（2017年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。